

# わなぐら 和名倉百年の森



2003.3.31  
会報第5号

発行：百年の森づくりの会 〒336-0015 埼玉県さいたま市南区太田窪2034-1

TEL 048-885-6697  
FAX 048-882-0245

メールアドレス：  
naitoh@saitama-j.or.jp



大陽寺植林地観察会(2002.9.29)

## 循環型社会の源流

会長 内藤勝久

和名倉山での植林を始めて六年目、お蔭様で年々活動の輪が広がりに会員も四八〇名となりました。和名倉山の造林小屋の基礎もでき、五歳の少女から六九歳の男性ら一〇八名が昨年の緑の日に、大陽寺の裏山に植えた三〇〇本の苗木も順調に育っています。一步の森のブナ達も厳しい環境にもめげず成長しています。荒川の洪水を防ぐために水源に木を植えようと立ち上がった団体もあります。

目次

循環型社会の源流……………1

秩父の森の見方……………2

(2)荒川源流の森は日本のへそ

二年目のどんぐり拾い……………7

第十二回ワークについて……………8

第2回荒川源流森づくり体験と森づくりを語る夕べ……………10

植林の地を再訪して……………11

通信欄より……………11

活動報告……………12

(人の問題)、いずれも早期の実現が可能で、実現すればおのずから会員も増えるだろうし、小学生や中学生にも呼びかけやすくなり、さらに大滝村を訪れる人が増えるので村が活性化すること請け合いです。

ところで今年は京都、大阪、滋賀の二府一県で「第三回世界水フォーラム」が開催されます。水を育む山への恩返しをコンセプトに始めた我々の植林活動が、上記のように第二ステージを迎える時期に開催されるのも我々にとってはフォロワーの風です。神話の時代から木の神を崇拜し、九世紀には環境保全条例を定め、稲や牡蠣を育てるために山に木を植えてきた日本人の叡智や技術を世界に示すまたない好機でもあります。日本がリーダーシップを発揮し米の文化を共有するアジア諸国と力を合わせ、世界の水問題の解決に立ちあがって欲しいと思います。

およそ百年前に内村鑑三は植林こそ国の最大の事業と喝破し、デンマークを例に戦争よりも植林が国の繁栄にとって重要であると、そして植林の効果で最も高貴なものは国民の精神であると説いています。敗戦によって失望したデンマーク人の精神が荒野での植林の成功によって一変したといふのです。

もう十年も日本が閉塞感から脱出できないでいる最大の理由は、日本人の心の荒廃であると思います。荒廃した心を癒し「夢と勇氣」を呼び覚ますには植林が一番です。若者達は、植林が循環型社会の源流であることを知り、植林活動に携わることの意義を確信し元氣を取り戻してくれるに違いありません。

# 秩父の森の見かた

(2) 荒川源流の森は日本のへそ

埼玉大学工学部教授  
佐々木 寧

## 森の歴史

歴史を重ねた文化・文明が人類にあるように、森にも歴史性がある。数百万年、数十年の地史的過程を経て形成された森と、地史的にわずか数万年しか経過していない森とは森の造りに大きな違いがある。人間の歴史の積み重ねを「文化・文明」とするならば、森の歴史は「生物多様性」とか「森の生態系」ということができる。もう少し具体的に話してみよう。関東平野の内、低地といわれる場所、例えば埼玉県では見沼田圃地域などは一万年前には海の底であった。一方、台地といわれる浦和・大宮台地は、数万年前には海底であった。いずれも富士や箱根の火山活動で噴出した火山灰が海底に厚く堆積し、その後隆起して陸になった場所である。そう

して見ると我々の周りにある関東平野の森は、少なくとも数百万年より古い歴史を持つことはあり得ない、新しい森なのである。

新しい土地が生まれると、まず周囲から種子が運ばれて徐々に植物が生えてくる。そしていつしか森へと遷移していく。しかし、そこに成立した森の植物は全て周りから入ってきた植物であり、この土地で生まれた新しい種類、新種、というのではない。自然界で新しい種類が生まれ定着するには少なくとも数万年以上かかりそうだからである。

新しい土地に成立した森も、その中では下剋上の戦乱の時代であり、森の安定には時間がかかる。人間社会でも、その文明の形成に長い時間が必要であるのと同じである。関東平野の武蔵野台地などでは、人間が多数定住する以前も、まともな森林は存在しなかったといわれる。安定した生態系や豊かな生物多様性を維持するには、また気が遠くなる程の時間が必要なのである。実際、新しい土地である関東平野特有の固有植物もほとんど存在しないのである。

次に荒川源流域の森について見てみよう。ここの地盤は関東平野とは全く異なっている。地質的には秩父帯に代表される古い地層

である。地質年代でいえば数百万年前までさかのぼる。その当時は木生シダやアンモナイトなどが生活していた程の古い時代である。この秩父帯は、まさに日本列島を形作る背骨にあたり、日本最古の地層とよばれる。この古い地層（背骨）は、同じく古い地層である三波川帯、四万十帯と共に層をなして、紀

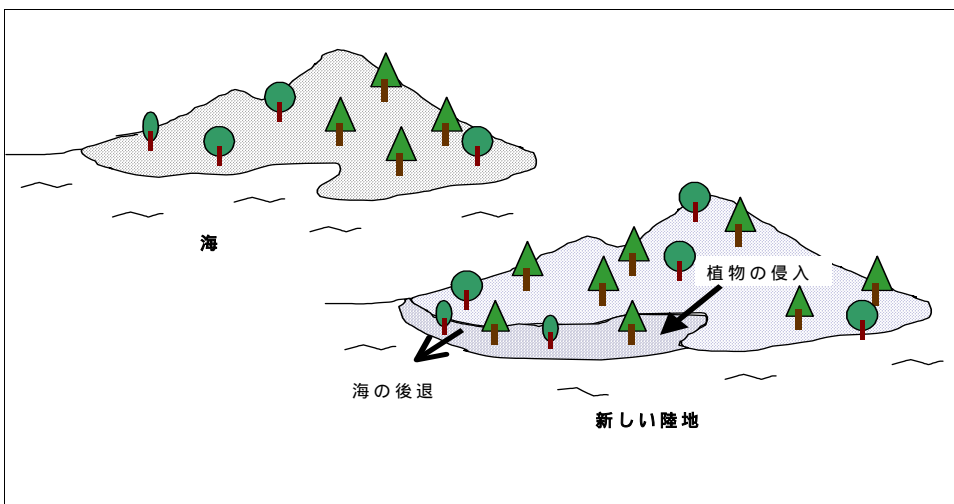
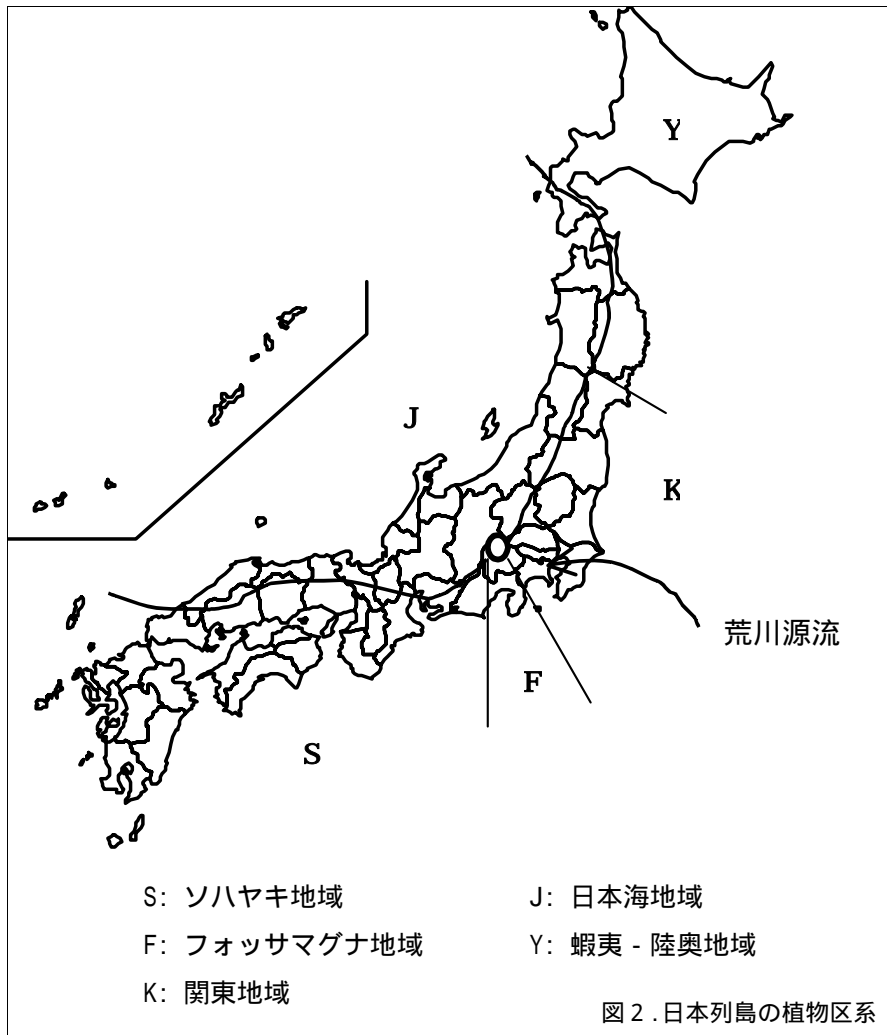


図1. 新しい陸地への森の進出



伊半島、四国、九州へ東西に伸びている。この東西のラインは中央構造線と呼称される。こうした日本の背骨に、くしくも秩父帯という名が与えられ、秩父は日本の列島の背骨と腰骨の接点に位置している。古い地層の一例が石灰岩地帯である。秩父の武甲山、群馬県

の双子山、四国カルスト、山口県の秋吉台などの石灰岩地帯がこの東西ラインに沿って分布している。また地殻変動の際の圧縮や隆起など、地球表面の押しくら饅頭で形成された硬い変成岩（粘土岩など）が分布する。この硬い岩盤が荒川源流のあの急傾斜地と渓谷を形成しているのである。この荒川源流域は植物区系でいう関東地域（K）を中心に、伊豆七島から箱根・富士、八ヶ岳につづく火山帯のフォッサマグナ地域（F）、さらに中央構造線外帯に広がるソハヤキ地域（S）の交差点に位置、日本列島のヘソにあたる。

う名前がつく植物を図鑑で見ると一〇種ある（環境庁の植物目録1987）。その土地特有の固有植物たちである。同じ時代の中央構造線一帯に特異的に分布する種類、すなわちソハヤキ要素の植物も多数ある。秩父ではテバコモミジガサ、ギンバイソウなどがソハヤキ要素植物である。

植物のことだから長い年月のうちに、種子が他の地域に運ばれて、分布を拡大してもよさそうだが、そのようなことはない。チチブイワザクラは武甲山しか成育しないし、チチブミネバリも現在なお秩父地方にしか生育していない。たとえ、その森が伐採されたとしても、また元の同じような森へ戻ろうとする。帰化植物など進入植物があっても一時的なことである。一見同じように見えるブナやミズナラの森も、例えば東北地方に広がるブナ、ミズナラの森とは森の文化・文明が違うのである。

この違いは単に植物だけの問題ではない。その花の蜜や実を食べに来る鳥や昆虫、葉を食べる昆虫、落葉の栄養で暮らす土壌生物やキノコ類、バクテリアの種類も微妙に異なるのである。こうした動物群集、微生物、植物などによって、長い年月で形成された安定し

た文明・文化、それが生態系なのである。「一旦破壊し失われた自然は戻ってこない」という根拠はここにあるのである。人工的には作りえないものである。

#### 歴史の証人

再び荒川源流の森へもどろう。森の中で見る大木、一抱え以上もある大木（大径木）、その年輪を数えてみたことがある。ほぼ四〇〇年～五〇〇年前後であった。荒川源流の森を構成する木々の一世代だけで約数百年ということになる。これを幾世代も重ねて今日に至っていることになる。もちろん過去には大規模な気候変動もあったので、現在と同じような状態で何万年も過ぎてきた訳ではない。少なくとも最後の氷河期である晩氷期の終結が一万年前ですから、その時点では大きな変化があったと予想される。その他にも中小規模の変動があったと考えられる。例えば、縄文時代の後半の小氷河期などである。この時、植物の垂直分布は、標高差で約二〇〇m ずれたといわれる。ある研究では、現在の形の状態での森で安定してきたのは、ここ二〇〇〇年程のことだという。この説にそって計算すると、荒川源流の森では、その時点から

少なくとも森の木々は四～五世代繰り返してきたことになる。もちろん二〇〇〇年以前にも何らかの形で森があったことは間違いない。

秩父東京大学演習林内の人川渓谷を歩いていると、時にひととき巨大なモミの木に出会うことがある。群生することなく単木でブナの森の中にそり立っている。これも山地にごく普通に見られるモミやウラジロモミでない。ハリモミとかイラモミという種で、こうした古い地層地帯に点在して生育している。森の歴史を偲ばせる木である。今までの文献によると、秩父源流域には一四六〇種程の植物が生育していると記録されている。昆虫類では約三〇〇種、鳥類も九〇種以上記録されている。こうした動物たちもそれぞれ歴史を抱えており、歴史の証人となる生物種が多数いるはずである。

表1. 奥秩父地方の確認植物

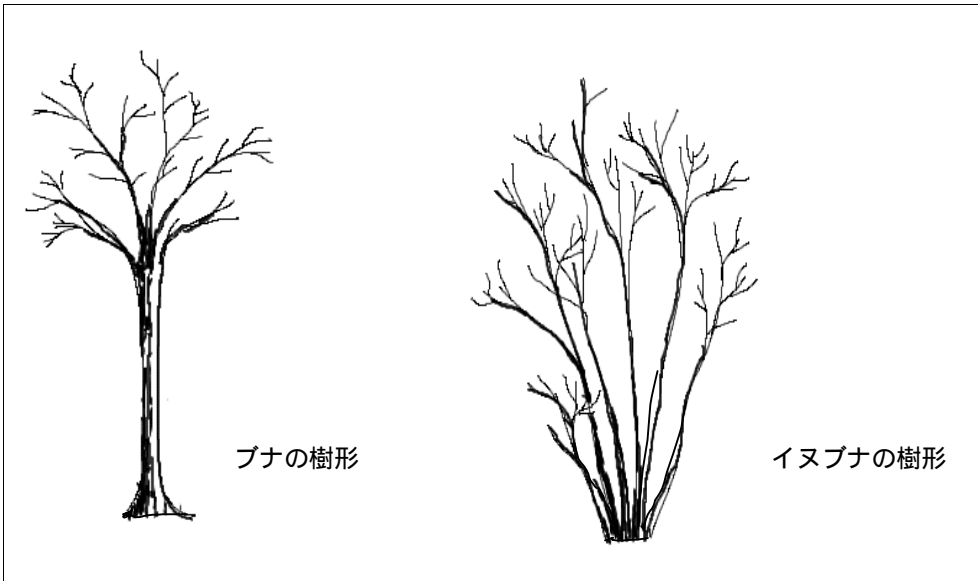


図3. ブナとイヌブナ

ブナの森  
荒川源流域には、ブナの森はそう多くはない。急傾斜地が多いことと、条件のよい所はすでに伐採されているからである。ブナは比較的緩い傾斜の恵まれた条件の場所が好きで

ある。東北地方の八甲田山、八幡平、福島の磐梯山周辺など火山灰の堆積した緩い地形の所に大規模なブナの森林が見られる。しかも、大木はブナがほとんどでミズナラやイタヤカエデなどが僅かに混じるだけである。各地にある毛無山とは、まさにブナの一斉林をさすことが多い。

秩父源流域のような急傾斜では、ブナと一緒にヨグソミネバリ、ダケカンバなど多数の種類が混生することが多い。特に標高一〇〇〇m付近ではブナよりもイヌブナの方が多くなる。イヌブナは太平洋側の山地に特有的に生える木で、日本海側の多雪地帯にはほとんど分布しない。

日本のブナの森は、太平洋側型のブナ林と日本海側多雪地域型ブナ林の、大きく二つの型がある。気候条件が大きく異なるためである。

東北地方に代表される日本海側型ブナ林は、高木層はブナとミズナラ、中低木にハウチワカエデ、コハウチワカエデ、オオバクロモジが生え、林床はチシマザサである。秩父に代表される太平洋型のブナ林は、高木層にブナ、イヌブナ、中低木にはコミネカエデ、オオイタヤメイゲツ、ヒナウチワカエデ、ク

ロモジが生え、林床はスズタケである。主な種類だけでも明瞭に異なっている。いずれもカエデ類とササ類が特徴となっている。歴史的には太平洋型のブナ林の方が古く、種類も変化に富んでいる。日本海側のブナ林は、数万年前頃から分派していった新しい形のブナ林といえる。

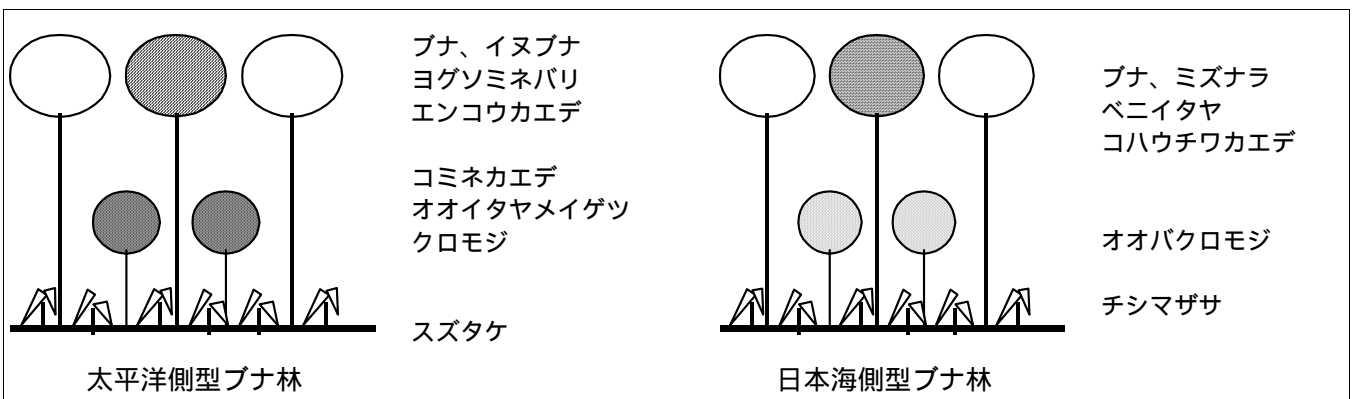


図4. ブナの森の構造

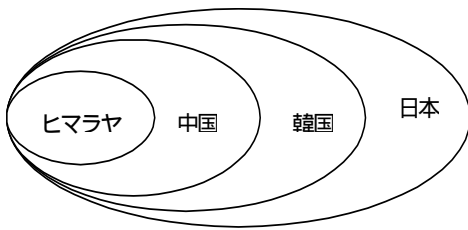


図5. 日本の森のルーツ

す。さらにさかのぼり、究極のルーツ根源はヒマラヤ山麓ということになります。仏教の伝来の道にも似た壮大な口マンです。次回は日本の神社の森、社叢林のルーツにまで話しを上げます。

## 日本の森のルーツ

荒川源流域の森は、日本でももつとも古く、長い歴史を経て成立した森であることを理解いただけたことと思います。それでは、日本列島そのものの森のルーツ、さらなる源を探ってみましょう。これまで見てきたように、日本にはブナとイヌブナの二種類のブナがあり、日本の温帯の森を形成しています。しかし、お隣中国の大陸部には、六種類ものブナがあるのです。

その他、ミズナラやコナラなどのナラ類、カエデ類、どれをとつても日本の何倍もの種類が存在します。また遠い過去の時代に栄え、現在の日本では絶滅してしまったイチヨウ、ノグルミ、フウノキ、スギの仲間などの植物が今も多数生き残っているのです。日本の森のルーツは、広大な中国大陸にあるので

## 参考文献

- 秩父滝沢ダム水没地域総合調査報告書  
自然編・人文編(1994)  
滝沢ダム水没地域総合調査会  
埼玉県秩父郡大滝村高等植物目録(1986)  
(1986)、岩田 豊太郎  
滝沢ダム周辺の環境について  
―現状調査結果 (1988)  
水資源開発公団滝沢ダム建設所  
日本の植物区系(1977)、前川文夫、  
玉川大学出版部  
天目山の古代林(1997)佐々木 寧  
生態環境研究4(1)・41-46

## 森林の用語集

根切り?根回し?

樹木を移植するとき、できるだけ葉を落とす植えることがあります。これは葉からの水分の蒸散を抑え、根の負荷を少なくするためですが、なぜ樹木にとって大切な根を切るのでしょうか。樹木を移植するとき、いきなり掘りあげてしまうと大切な細根の部分はほとんど切断されてしまいます。この状態で移植された樹は、極端な場合は枯れてしまいか、新しい細根ができるまで成長が衰えてしまいます。それを防ぐため、移植の数年前から根を徐々に切断し根元付近に細根を発生させ、移植のときの衝撃を少なくすることが出来ます。この作業を「根回し」と呼んでいます。また、苗を小さな鉢ポットで育てるとポットの中に根のいっばいはつた丈夫な苗を作ることが出来ます。

外生菌根菌 ガイセイキンコンキン?

どこで区切って読んでよいかわかりにくい言葉ですが、「外生」に対しては、当然「内生」という言葉があります。ほとんどの樹木は菌根菌と共生しています。稚樹時代では、とくに菌根菌との共生によって樹木の活力が高まるといわれています。自然状態では、菌根菌と共生のできない樹木の個体は枯死し消滅する運命にあるといわれるほど大切な役割を果たしています。菌根は、外生菌根と内生菌根の二種類に区分されます。菌糸が樹木の根をおおって、その表面または表面に近い組織中に繁殖し、菌被をつくっているものを外生菌根といい、菌糸が根の皮層組織の細胞内に侵入して、共生的または寄生的な生活をしている場合を内生菌根といいます。アカマツ林のなかで取れる秋の味覚マツタケは、外生菌根菌のひとつです。

## 二年目のどんぐり拾い

### ミズナラの苗作りの計画

植物担当 市川嘉一

昨年の九月二十九日に行われた東大演習林「樹木園」の観察会に、一昨年に拾ったどんぐりを鉢植えにして育てた苗を持っていきましました。参加された皆さんにお見せし、ミズナラどんぐりの育苗について説明しました。期待していた「樹木園」では、どの辺りにミズナラが多いのか分からず、良さそうなミズナラどんぐりはほとんど取れませんでした。それでも参加された方の何人かは数少ないどんぐりを植えられたのではないのでしょうか。

一〇月二六日、第十一回植林地整備のため仁田小屋尾根を登っていると、イヌブナ平まであと一〇分ほどの所、作業道の右手に大きなミズナラがありました。木の周辺を探してみると、ようやく二個のどんぐりを見つけたことができました。しかし小さめで軽く、苗作りに用いられるか不安でした。

一〇月二七日は早朝、私と田島さん、埼玉大学ワンダーフォーゲル部の学生三人が昨年度も採集した秩父の仙元尾根に向かいました。幸いに今年のミズナラは豊作で、五人で短時間の内に一五六個の大きなどんぐりを拾い集めました。その中にはすでにもう根を出

しているものもありました。

乾燥させないように急いで深谷の自宅に帰り、仁田小屋尾根の二個も含めて水選をしました。一二四個が水に沈み、これをあらかじめ耕しておいた庭の片隅の苗床に植えましました。深さは約三センチメートルで横倒しにして埋めました。苗床が狭いのでどんぐりの間隔は一〇センチほどになりました。乾燥を防ぐためにワラや落ち葉をその上に敷き詰めました。

年を越し、三月になって雨も降るようになってきました。そろそろワラや落ち葉をどけて、芽が出やすいようにしようと考えています。

その後は発芽率や葉の茂り具合を見て、発芽率が低い場合は秋までそのままにする予定ですが、発芽率が高く葉も良く茂るようなら、早めにポット仕立てにして秋に根切りをし、その後広い苗畑に移したいと思っています。

ポットは「NPO法人蔵王のブナと水を守る会」が用いている、牛乳パックに赤玉土などを入れたものを参考に作り、キノコの採れる秋に外生菌根菌の接種などもしてみたいと思っています。しかし、適した菌根菌の種類やその入手、接種の仕方などおおよその方法は分かっているものの初めてのことで、試行錯誤の実験をしながらの苗作りとなります。

和名倉山の植林は、陽樹で落葉針葉樹の力

ラムツ植栽林に陰樹で落葉広葉樹のブナ、ミズナラの苗木を植え込む活動です。針葉樹と広葉樹の混交林化をまずはめざし、遠い将来にはかつてあったようなブナ、ミズナラを高木層、カエデ類を亜高木層とする冷温帯の落葉広葉樹林に遷移を導きたいと考えているのです。ところが第十一回植林地整備の際に、カラマツ植栽林の中にミズナラの低木が見つけられました。今後、カラマツ植栽林の中でさらにミズナラの低木が数多く見つければ、場合によってはこのミズナラの苗作りを取りやめ、ブナの苗のみを植える方向も出てくるかもしれません。



仙元尾根でのミズナラどんぐりの採集 (2003.10.27)

# 第十二回百年の森ワークについて

植林担当 高岡正彦

現況そして今後の取り組み方

これまでの活動の結果、山火事の後に村が植林した四〇万本の落葉松が直径三〇センチほどに成長しています。樹木の成長が遅い山頂付近のシラビソ林を頂点に、ブナなどの植生域は、標高一七〇〇メートルまでと考えられています。

そこで、過去二回の植林も、次回の植林も、落葉松の林の中の隙間（林間ギャップ）に、秩父産の広葉樹（ブナ）を植林していきます。今後はワークごとに採取したミズナラなどのドングリから苗を育てて、それを植林したいと思っています。また、上部については、まず土が流れ落ちない工夫が急がれます。今、上部に植林できるような苗はないので、今ある生態系を維持できるような手助け作業を活動として考えています。

また、和名倉山には、熊、カモシカ、鹿、テン、猿などの動物がたくさんいます。これらの生態系も保護しなければいけないと思っています。もちろん専門家による調査をまっただけですが、なんらか手助けできることがあれば、それも活動に入れていきたいと思っ

ています。動物達が生きていられることが、森を守り、育てる事につながると思っていますから。

## 第十二回百年の森ワーク

第十二回百年の森ワークでは第三回目の植林を行います。昨年のワーク（第十一回ワーク）で地摺えした場所に植林をします。場所は「一歩の森」の周りです。これまで植林した経験から、背の低い株の方が元気ですのので、そのようなブナの株を、東大演習林から分けてもらおうと思います。

## 目標

第三回植林 ブナ二〇本

セカンドフォレスト(第二回植林地)の観察

仁田小屋改修のための調査・作業

## 日時

五月二三日(金)～二五日(土)

参加希望者は、

五月十一日(土)までに事務局までFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX 〇四八 八八二 〇二四五

メール naitoh@saitama-j.or.jp

四月五日、五月六日下見の予定です。



大きな山容を誇る和名倉山(標高2036m)

- 東：霧藻ヶ峰よりの眺望
- 南：三つ山よりの眺望
- 西：雁坂・黒岩尾根よりの眺望
- 北：大滝村折本よりの眺望

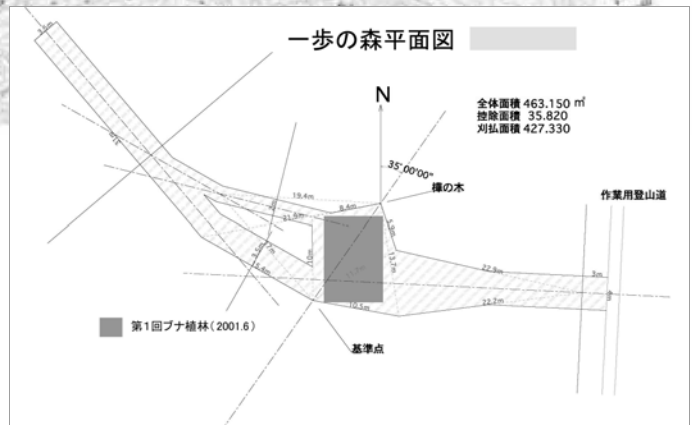
いずれも杉本智彦氏作成の三次元地図ソフト「カシミール3D」によるシミュレーション画像です。興味のある方は、以下のアドレスから無料でダウンロードできます。GPSと組み合わせて、登山などの楽しみを広げることができます。

<http://www.kashmir3d.com/>





- 仁田小屋尾根植林作業の経過**
- 2001年 6月 第1回植林 ブナ13本 (4年生4本、8年生9本)  
仁田小屋尾根1500m (「一步の森」)
  - 2001年 8月 仁田小屋尾根全ルート植生調査
  - 2001年10月 観察
  - 2002年 6月 第2回植林 ブナ13本 (5年生13本)  
仁田小屋尾根1600m付近4区50m間隔坪植え
  - 2002年10月 一步の森地拵え約400㎡ (右図)



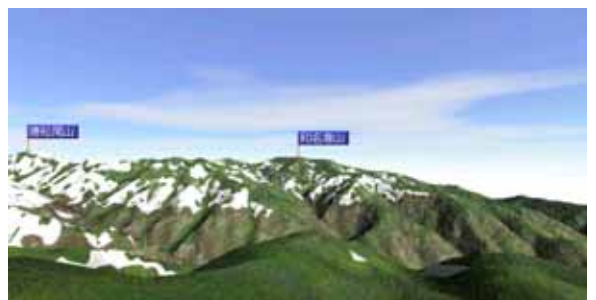
雁坂 - 黒岩尾根より望む (3月31日15:00時)



霧ヶ峰より望む (3月31日8:00時)



大滝村栃本よりの望む (3月31日8:00時)



三つ山より望む (3月31日12:00時)

## 第二回荒川源流森づくり体験と森づくりを語る夕べ

記録担当 田島克己

日時 四月二六日(土)～四月二七日(日)

集合 四月二六日十時 秩父鉄道三峰口

場所

植林作業「大滝村中津川「彩の国ふれあい  
の森」内「生産の森」ゾーン

森づくりを語る夕べ「大滝村村営こ  
まどり荘

参加費 五〇〇〇円(宿泊代、昼食2回、夕  
食1回、保険料)

森林が持つ様々な機能を見直し、これまで  
木材生産に限定されてきた森林造成のあり方  
を変えていく試みが各地で行われています。  
水源涵養、山地保全、保健休養林など、その  
土地の自然環境、社会環境に適合した森づく  
りが意識的に試みられ、その成果が少しずつ  
ですが公にされるようになりました。それ  
は、樹木の寿命が、人の一生以上に長い単位  
で考えなくてはならないことから、すぐに結  
論のえられる作業ではありませんが、今日日  
本各地に残された美林といわれる森が、人の  
知恵と営為によって守られてきたことと考え

合わせれば、最近の意識的な試みは、大きな  
遺産として未来に残されるといえます。そし  
て、市民的なレベルで森のことが語られ、日  
本の林業の現状が語られるようになったこと  
に、時代の確かな流れを見ることができま  
す。都市の住民が、地元の人々と共に森づく  
りに係られるような環境がつけられ、生産林  
を含めた森づくりのビジョンを共有できるよ  
うな社会的なしくみが整備されること、  
様々な困難をのりこえる大きな力として望ま  
れています。森林は、唯一の再生可能な資源  
だといわれていますが、人工林での間伐作業  
の遅れや、また「二割間伐」と称して強制的  
に間伐が行われても、流通先が確保できない  
ためにやむなく山中に切り捨てられるなど、  
森林が大切にされているとはいえない現状が  
一方にあります。技術や量の上から、市民の  
ボランティア活動には制約がありますが、森  
づくりや将来の循環型社会のあり方につい  
て、広くビジョンを共有し、共に係わってい  
くことで、様々な問題の解決も見えてくるの  
ではないでしょうか。昨年「緑の日」に植林  
した大陽寺の参道に沿う三〇〇本の樹木たち  
が、もはや無縁ではないように大切に思っ  
てくださる方も多いのではないのでしょうか。私  
たちの森づくりは、そんな所から出発したい  
と考えます。

今年も、県有林での広葉樹の植林作業を昨  
年に引き続き行います。今回は、荒川の源流

域の中津川万衛門倉地区のスギ伐採跡地約二  
haに広葉樹を中心に植林作業を計画してお  
ります。この地区から切り出された木材は、  
上尾の武道館の建設にも使用され、県民との  
係わりもある所です。今年度は、この地にと  
のような森づくりをしていくのかの最初の試  
みとなります。

また、二六日植林作業後、植物生態学の  
佐々木先生や公共経済学の貝山先生、県林務  
課の小室氏を囲んで、村営こまどり荘オーブ  
ンスペースで、これからの森づくりについて  
語る夕べを開催いたします。多くの皆様にご  
参加いただき、これからの森づくりについ  
て、共に語り合っていたきたいと思いま  
す。どうぞ、ご参加くださいませようご案内  
申しあげます。なお、二六日は、設備の良く  
整った村営こまどり荘の宿泊施設も利用でき  
ますので、宿泊を希望される方は、四月十日  
までに事務局までお申し込みください。

# 植林の地を再訪して

会員 重田 勉

「無事に活着しているだろうか。」

秩父鉄道車中での心配は、大陽寺参道から山裾を数十歩ほどよじ登り、視界の開けたところで解消した。

三十度ちかくあろうとみられる急斜面に、赤いリボンの結ばれたミズナラやヤマザクラなどの幼木が、ほどよい間隔で、初秋の陽光を受け、すっきりと立並んでいるではないか。

五ヶ月前の「緑の日」、岩だらけの痩せた山肌に、重い鶴嘴で穴を掘り、百人が大汗をかきながら、二時間近くかけて植え付けた三百本の苗木が見事に活着したのである。生命の力はすばらしい。「水源の森」の誕生である。

幼木のまわりの草取りで一汗かいて、今も修験僧が現れそうな古色蒼然とした大陽寺の堂宇の框をおかりしての昼食がまたすばらしかった。珍珠中津川芋もさることながら、地元大滝村の方々の温かいお気持ちをたっぷりいただいた。

ところで水は不思議な物質である。消滅することも増殖することもなく、土壌の中、大気の中に、そして生物の体内の中に形を変えつつ流転する。この水を有効に活用するため、いかに浄化していくかは人類の責務である。「水源の森」の役割は大きい。

午後を訪れた東大演習林で、どんぐりを探しながら、しっとりした原生林を散策していたとき、脳裏に浮かんだ拙い一首。

風雨耐え百歳かけて育たれよ

ももせ

ブナミズナラにヤマザクラたち



# 通信欄より

郵便振替用紙の「通信欄」に寄せられた会員の方のお便りです。

豊かな森と山を愛する一人として、喜んで入会させていただけます。とりあえず、五年分を一括して送ります。二十一世紀に続く事業に参加できることにワクワクします。

二人共六〇才を過ぎましたが、山歩きが大好きです。

会の主旨に賛同しますので、入会いたします。よろしくお願いいたします。

秩父鉄道の駅でパンフレットを見ました。貴会の主旨に賛同し、入会いたしたく年会費として納入します。

遅くなりましたが、入会しますので五年分の会費を納入します。遠いので植林には参加することはなかなかできないと思いますが、心は飛んでいって一つになれる気がします。

一〇〇年も生きつづけていたいと思う。素敵な企画にワクワクします。何かお役に立てるでしょうか。よろしく願います。

長瀬町に在住する者です。四〇才を過ぎてから野山の散策を始めました。秩父から群馬・長野・山梨・栃木・福島と脚を伸ばすに当たって、我秩父の山の水量の貧弱なること、山が真っ黒で薄暗いこと、やっぱり山は落葉の樹で覆われなくちゃ、緑のダムにしなくっちゃと思います。頑張れ百年の森。

中学校の教員で、山に登って三〇年ぐらいになります。私も山に恩返しをしたく思い、森や植林に関心を持って一人でありたいです。生徒を連れて夏休みなどに参加したいと考えています。

意義のある事業に感銘しております。今後とも頑張ってください。

ますます意義のある活動になっていくようにおもいます。

## 平成14年度下期の活動報告

## 「荒川源流森づくり体験」大陽寺植林地および東大演習林「樹木園」観察会開催

9月29日(日)に第1回「荒川源流森づくり体験」大血川大陽寺植林地および東大演習林「樹木園」の観察会を開催しました。

当日は、植林体験に参加下さった方々を中心に67名の参加をいただきました。大陽寺植林地の植林した場所をそれぞれの想いで観察した後、東大演習林「樹木園」に行き、どんぐり拾いを計画していましたが、時期的に遅かった為、出来ませんでした。しかし、これからも皆さんに「荒川源流の森」への理解を深めていただく企画を考えていきたいと思っております。

## 第11回百年の森づくりワーク実施

10月25日(金)から27日(日)に、第11回百年の森づくりワークを実施しました。当日は22名の参加をいただき、第1回植林地「一步の森」の周辺約427㎡の草刈りを実施し、第3回の植林するための場所を切り開きました。また、第2回植林地「セカンドフォレスト」の植生状況を観察しました。(詳細は本会報に別掲)

## 百年の森交流会開催

11月2日(土)に、埼玉大学校内「百年の森テラス」において、恒例の百年の森交流会を開催しました。当日は、35名の参加をいただき、「百年の森づくりの会」の活動状況の展示のほか、埼玉大学に組織された、「百年の森研究会」の佐々木先生による映写会も実施しました。豚汁を食べながら、和気藹々のうちに終了することが出来ました。

## 平成15年度上期の活動計画

## 「第2回荒川源流森づくり体験」と「森づくりを語る夕べ」

日時 4月26日(土)～4月27日(日)  
集合 4月26日午前10時 秩父鉄道三峰口  
場所

植林作業 = 大滝村中津川「彩の国ふれあいの森」

森づくりを語る夕べ = 大滝村村営こまどり荘

参加費 大人2000円(中学生以下無料・高校生・大学生1000円)

参加ご希望の方は事務局まで、電話、FAX、電子メールにてご連絡ください。詳細は別紙チラシ参照。

参加者には、後日スケジュール等、ご案内します。

## 平成15年度第3回通常総会開催

日時：平成15年5月11日(日)午後2時 受付  
場所：大宮ソニックシティビル4階 市民ホール  
スケジュール：

14:15～15:00 第3回通常総会

15:00～16:30 記念講演

演題：「森は海の恋人」

講師：畠山 重篤氏(牡蠣の森を慕う会 代表)

16:45～18:00 懇親会(会費3000円)

詳細は別紙チラシ参照。

会員皆様のご出席をお待ちしております。

## 第12回百年の森ワーク

開催日：平成15年5月23日(金)～25日(日)

活動：第3回植林を実施

20本のブナ苗木を植樹予定

参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

参加者には、後日詳細をご連絡します。

## 第1回「荒川源流森づくり体験」大陽寺下草刈り

開催日：平成15年7月27日(日)

場所：大滝村大血川大陽寺植林地

集合地：秩父鉄道三峰口駅

(現地まで送迎マイクロバスあり)

午前10時までにご集合ください。

作業：300本植林した0.4haの下草刈り

内容は別紙チラシ参照。

参加できる方は、事務局までご連絡ください。

参加者には、後日詳細をご連絡します。

## 【事務局】

〒336-0015さいたま市南区太田窪2034-1

百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久

TEL 048-885-6697

FAX 048-882-0245

e-mail naitoh@saitama-j.or.jp

## 現会員(会員番号 氏名 住所)2003.3.15現在

414 平山 富美子 東松山市 / 415 中尾 安志 さいたま市 / 416 加藤正晴 さいたま市 / 417 柄沢 和夫 豊島区 / 418 赤芝 悦朗 袖ヶ浦市 / 419 阿部 道生 板橋区 / 420 江森 文代 幸手市 / 421 小島 四郎 桶川市 / 422 岩瀬 勇一 さいたま市 / 423 矢澤 明雄 上尾市 / 424 細田 登 さいたま市 / 425 十倉 秀樹 さいたま市 / 426 町田 正市 関宿町 / 427 木森 てる子 小川町 / 428 平川 尚義 越谷市 / 429 梅原 基則 さいたま市 / 430 石神 貴也 府中市 / 431 野上 一昭 さいたま市 / 432 奥山 英治 さいたま市 / 433 神田 秀仁 さいたま市 / 434 間宮 秀夫 さいたま市 / 435 五十嵐 竜哉 さいたま市 / 436 穂積 義雄 さいたま市 / 437 榎崎玉イソアリス 川口市 / 438 友和サービス(株) さいたま市 / 439 高橋 秀明 さいたま市 / 440 石井 寛 坂戸市 / 441 高野 光介 川崎市 / 442 小野里 薫 荒川区 / 443 浅海 忠 荒川村 / 444 秋山 守 上里町 / 445 熊谷 重雄 深谷市 / 446 上林 寛 熊谷市 / 447 小川 訂 荒川村 / 448 中畝 俊博 皆野町 / 449 井上 信 秩父市 / 450 池畑 勝正 行田市 / 451 田中 茂次 深谷市 / 452 小川 高雄 熊谷市 / 453 富田 義三 熊谷市 / 454 渡部 繁己 江戸川区 / 455 渡辺 伸行 江戸川区 / 456 小原 太史 世田谷区 / 457 児島 津多雄 江戸川区 / 458 滑川 静夫 千葉市 / 459 岩瀬 憲昭 江東区 / 460 渡辺 良則 江戸川区 / 461 堤 幸一 江戸川区 / 462 川村 順子 練馬区 / 463 石原 克彦 朝霞市 / 464 三枝 仁 板橋区 / 465 丸茂 利男 杉並区 / 466 三井田 悠三 練馬区 / 467 内田 稔 練馬区 / 468 石束 隆 豊島区 / 469 竹村 建 鶴ヶ島市 / 470 渡邊 孝夫 板橋区 / 471 富沢 みよ子 板橋区 / 472 廣畑 伸也 豊島区 / 473 小林 靖子 板橋区 / 474 川久保 美智子 北本市 / 475 黒田 巴 白岡町 / 476 高氏 紀敏 草加市 / 477 大森 初美 練馬区 / 478 武田 和子 練馬区 / 479 杉山 智恵 さいたま市 / 480 忽滑谷正一 さいたま市

## 会員募集しています。

年会費 個人会員 2,000円

法人会員 10,000円

郵便振替 00140-0-555239 百年の森づくりの会

銀行振込 埼玉りそな銀行 南浦和支店

普通預金口座 No 3835666

百年の森づくりの会 会長 内藤 勝久